

発行 日本共産党南知多支部



連絡先
〒470-3321 南知多町
内海内塩田77-3
(南知多町議会議員)
内田 保
電話 0569-62-1816
携帯 090-2776-7529

内田たもつだより

内田たもつ ホームページ
http://uchida-tamotsu.jimdo.com



日本共産党発行
赤旗
日刊 3497円
日曜版 930円

食の安全から養鶏問題の今を考える

1月28日に地域のサークル「『平和な暮らしとは』を考えたいく会」が開かれ、内田議員も参加しました。この会は、平和な暮らしをしていくための様々な問題を参加者が提起し、みんなで考えていく会です。今回、養鶏問題が取り上げられました。2020年に、美浜町芋沢地区の巨大養鶏場計画が美浜町に提出されました。南知多町内海地区に関わる事がわかり、野間や内海地区の住民から反対運動が起き、計画は撤回されました。その後、養鶏問題はどうなっているのか、今回、問題提起をされた美浜町在住のAさんからの投稿を紹介します。



① 鶏飼料価格の高騰が深刻化
鶏への給餌は主に配合飼料で、その半分がトウモロコシです。そのトウモロコシ輸出量世界4位のウクライナがロシアに侵攻され、国土の7割を占める穀倉地帯が壊滅状態となり、世界的な流通危機に陥っています。それに加えて、隣国の中国では今や豚肉消費が世界一となり、その飼育のために飼料用にトウモロコシを買いあさっているのです。日安の影響もあり、ここでも日本は「買い負け」を

しているようです。さらに、トウモロコシ輸出が世界1位のアメリカでは「再生可能燃料基準」を制定、エタノール燃料の一定量使用が義務付けられた事を機に「バイオエタノール産業」が急速に成長したため、トウモロコシ需給の多くがエタノール用に使われています。

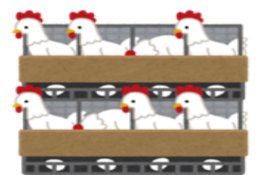
養鶏業界は未だかつてない経営の危機

今、養鶏業界では未だかつてない経営の危機を迎えていると聞きます。その原因として

② 高病原性鳥インフルエンザが蔓延

2022年秋、過去最も早く10月28日に最初の感染が確認されて以来、今までに発生が無い6県にも拡大し、1月23日時点で25道県64事例が発生しており、過去最多の1179万羽の鶏が殺処分されています。

ここで、鶏の殺処分羽数の多さに異常を感じます。一つの養鶏農場で多くても数百羽の感染死が出て、残り全部が殺処分される訳です。飼育数が万羽単位になり、百万羽超えの農場も幾つかみられ、一度に大量の虐殺がされる事例が増えています。農



（川柳コーナー）

動物の命食むヒトの傲慢

「畜産が農家のものではなく、商社のものになろうとして命を扱う『農』ではなく『工業化』」という言葉を聞いた。人も動物も自然の一部にすぎない。命あるものを粗末にするのは人の傲慢さ。やがてしつこく返すに合うのでは。

水省が出した発生状況データをみると、発生の殆どがケージ飼いの採卵鶏です。しかも大規模な無窓鶏舎が多いようです。日本では、殆ど（9割以上）の鶏卵養鶏場がケージ飼いの飼育です。動物福祉の観点からも世界的に遅れているのが現状ですが、卵の消費が世界2位の日本人への供給を満たすために、施設が大型化し、飼育方法も生産性重視で合理化が行われているのです。

アニマルウェルフェアの精神で飼育を

アニマルウェルフェアを和訳すると「動物の福祉」です。OIE（国際獣疫事務局）という政府機関が定義したもので、日本も1930年に加盟しています。愛玩や経済動物を問わずに、動物に慈しみをもちて優しく接しようという指針があります。また、次の「5つの自由」から構成されています。① 飢餓と渇きからの自由 ② 苦痛、障害又は疾病からの自由 ③ 恐怖及び苦悩からの自由 ④ 物理的、熱の不快感からの自由 ⑤ 正常な行動ができる自由です。日本の殆どのケージ飼いの養鶏場では実践できていないのではないのでしょうか？

生虫や汚れを落とし、日光浴をし、巢に隠れて卵を産み、止まり木で眠るといった行動をします。それを、狭く身動きできない金網がごの中に押し込み、産卵が低下した鶏に対しては、10日程餌を断ち再び多く卵を産むように強制換羽が行われる等、鶏にとってストレス満載な飼育が行われているとの事です。中でも抗生物質が多用され、人間でも問題になっている、薬剤耐性菌が蔓延しているとも聞きます。

世界動物保護協会が調査している「動物保護指数」では、日本の家畜福祉は中国より悪く最低ランクの「G評価」との事です。古く弥生時代に渡来した鶏と卵は、日本人の食に深くつながり、貴重な栄養源になっています。また、一人あたりの卵の年間消費量は約340個で世界2位です。そのために大型生産工場のような農場で飼育されているのが現状です。今の畜産養鶏業を全面否定するものではありませんが、消費者としては、その卵がどうやって私たちの食卓に運ばれてくるかは、知っておかなければならないと思います。さらに、SDGs「持続可能な開発目標」の観点では、畜産飼料生産のためアマゾン原野が荒廃しているとも聞きます。五十年、百年後の後世に健全な地球環境を繋いでいく事も必要ではないのでしょうか？

